

令和5年度(下半期)
経営発達支援計画に基づく短期目標に係る総合評価

1. 地域経済活動向調査

評価対象事業

- ・管内の小規模事業者の景況調査経済動向資料の分析・作成
- ・公的機関が発行する資料の整理・分析、調査事項に対する分析・公表

実施状況

- ・管内の小規模事業者 80 者を対象に、景気動向調査を 12 月と 3 月に行い公表した。
- ・併せて公的機関発行の景況に関する資料を収集し、公表資料に盛り込んだ。
- ・上半期の反省からスケジュールを再確認して遅れなく公表した。また、3 月分については商工会の公式 LINE でも発信した。

評価・コメント

委員からは「イラスト化されていて分かりやすい」「調査結果は、各種施策にも関連するので継続的に実施していただきたい。」とのコメントの他、LINE での周知を評価いただいた。

2. 経営状況の分析

評価対象事業

- ・ローカルベンチマークを活用した経営分析の実施

実施状況

・重点支援先の公募、経営分析セミナーの実施は上期に完了していたが、従来の財務分析に加えて非財務分析までも取り組んだ「ローカルベンチマーク」を使った経営分析では、目標である 30 者は達成できたが、年度末時点で本気の事業者のうち未提出者が 3 名あった。

評価・コメント

委員からは本気の事業者の取組について「熱心さに感心する」「本気の事業者の横のつながりで新たな事業の展開ができていようで期待できる」と評価いただいた一方で、「ローカルベンチマークの 100% 提出を願いたい」との指摘もあった。

対策

事後評価で「作成が難しい」との感想もあったことから、まずは簡易な分析を行った上で、その結果を踏まえて専門家派遣制度等を活用しながら、ローカルベンチマークの作成を支援し、100% 提出いただけるように取り組む。

3. 事業計画策定

評価対象事業

- ・ 創業塾の開催
- ・ 事業承継に関する個別相談会の開催

実施状況

・ 事業計画としては上期に実施した事業計画策定セミナーを踏まえて、本気の事業者のうち 26 者が当会独自のビジョンシートを提出した他、創業者の補助金支援等を通じて 8 者の創業計画の策定を支援した。事業計画も経営分析のローカルベンチマーク同様に、目標である 30 者は達成したものの、年度末時点で本気の事業者のうち 9 者が未提出となった。

・ 多可町と連携して「多可町創業塾」を 4 回(10/2, 17, 23, 30)にわたり開催し、13 人が全講義を受講して修了証が授与された。

・ 事業承継の支援として上期に続き 2 回目の個別相談を 1 回(12/6)開催し、3 者の相談があった。

評価・コメント

創業塾に関しては「参加者数が多い」と評価をいただいた。一方で、経営分析と同様に事業計画でも未提出があった経緯についての質問があった。

対策

事業計画策定支援に関しては、支援中の管理を強化して未提出を含め計画策定が円滑に進められるように改善を図る。創業塾に関しては、他の支援機関の開催方法や内容の難易度等の情報収集しながら、より参加いただきやすい内容を検討する。事業承継の支援では、事業承継計画の策定を意識しながら、相談後のフォローにも重点を置いて取り組む。

4. 事業計画策定後の実施支援

評価対象事業

- ・ 巡回・窓口相談によるフォローアップ
- ・ IT の積極活用によるフォローアップ
- ・ ミニ勉強会の開催

実施状況

・ 本気の事業者(34 者)、創業者(5 者)に対するフォローアップを行い、年間で延べ 258 回の支援(巡回相談・窓口相談)を実施した。

・ 売上増加事業者は達成できたものの、利益率 3%以上増加事業者の目標は物価高騰の影響などもあって、今年度も達成できなかった。しかし、3%には届かずとも利益増加した事業者は 11 者あった。

・ 持続化補助金の申請に関して IT 活用を計画に盛り込むよう指導した他、チャット GPT

セミナーなど IT を活用した業務改善に向けたフォローアップも行った。

- ・本気の事業者を対象としたミニ勉強会を 5 回(12/8, 1/16, 2/5, 2/20, 2/26)開催した。

- ・本気の事業者を通じての異業種交流の成果として、若者に地域の仕事を知ってもらう多可高校での「ガチバイトサークル」創設に向けた動きについて説明した。

評価・コメント

委員からは「利益率の目標は、物価高騰等の影響もあるが引き続き達成に向けて尽力してほしい」とのコメントがあったほか、「経営分析はグループワークで SWOT 分析を参加者相互に実施するなどして、計画策定はそこそこに計画実行と検証に重点を置いて支援しても良いのではないか」「全ての活動・セミナーの後のフォローアップに力を入れてもらいたい」など、フォローアップの強化を求める意見が複数あった。

また、本気の事業者に参加した委員からは「本気の事業者の中で、横のつながりができているのを実感できる」と評価するコメントもあり、中央会の異業種交流の補助金活用のアドバイスもいただいた。さらに、ガチバイトサークルに関しては、人手不足解消の観点から取組に評価をいただいた。

対策

多くのコメントや意見をいただいた通り、経営計画、経営分析を含めてフォローアップに注力をして成果が出るように取り組む。ミニ勉強会は異業種交流の場として参加メリットの 1 つになっているため、参加者が課題意識を有する共通テーマの確認を早期に行い、余裕をもって開催できるように改善を図る。

5. 需要動向調査

評価対象事業

- ・ヒトを対象にした需要動向調査(高齢者)
- ・モノを対象にした需要動向調査(衣生活・食資源)

実施状況

ヒト(高齢者)を対象とした需要動向調査は、多可町生涯大学「多可学園」の受講者を対象に実施し、116 サンプルを回収して報告書を 35 者にフィードバックした。モノを対象とした需要動向調査のうち衣生活の調査は、播州織事業者の出展を支援した 2 つの展示会の来場者(バイヤー等)を対象に実施し 100 サンプルを回収し、報告書を 11 者にフィードバックした。また、多可町の食を対象とした需要動向調査は、62 サンプルを回収して 19 者にフィードバックした。

評価・コメント

委員からは詳細な調査とその内容について高い評価をしていただいた。また、食資源について海外展開に関する支援の要望も寄せられた。

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業

評価対象事業

- ・ 広報支援および IT 活用による支援
- ・ 展示会等出展による販路開拓支援
- ・ 人手不足解消のための事業
- ・ 地場産業・地域資源のブランド力向上と地域内消費の拡大事業
- ・ 交流人口増加のためのまちめぐり事業

実施状況

- ・ みみより information を活用して持続化補助金の情報提供を行い、下期で 3 者の支援を行った他、海外向け商品の開発に向けた商標登録に関する専門家派遣を行った。
- ・ 多可町と連携して多可町の定例記者発表会の場で、下期中に 3 回の広報支援を行った。また、メディア 4 者を迎えて合同記者発表会を開催し、発表した参加者 1~4 期生の本気の事業者 6 者のうち 2 者が新聞掲載などの成果を得ることができた。
- ・ 10/10~12 の日程で開催されたファッションワールド東京で、5 者の出展を支援した。上期に報告した東京インターナショナル・ギフトショーの成果と併せると、年間で 14 件 302 万円の成果を挙げている。
- ・ 1/26~27 で開催したリアル播州織 EXPO2023 では、初めての試みとしてライブコマースアプリを活用した取組を行い、2 者が売上獲得につながった。
- ・ 1/24~25 に開催された FOOD STYLE KANSAI 2024 では、7 者が出展し、2 件 50 万円の成果を挙げている。

評価・コメント

行政からは「多可町の補助金制度や定例記者発表の場をもっと活用していただきたい」との意見もいただいた。また、展示会出展に関しては「播州織や食だけでなく、他の業種も出展を支援して欲しい」「ライブコマースアプリの使用など新たな取組はよい」との意見があった、

総括

全体を通じての意見として、「事業の取り組みについて目標をほぼ達成することができ、高く評価できる」とのコメントが寄せられた。また、「利益率 3%のクリアが課題」「全ての活動・セミナーの後のフォローアップに力を入れてもらいたい」「IT 活用やガチバイトサークルなどを通じて、人手不足解消に向けた取組の強化を」との意見があった。

●評価委員による項目別チャート

